

平成29年度「東京都 児童・生徒の学力向上を図るための調査(第2学年対象)」結果一覧 練馬区立大泉学園中学校

◆学力調査の結果（正答率） 7 / 6（木）

教科	A 教科の内容										B 読み解く力に関する内容								AとBの合計			
	関心・意欲・態度		思考・判断・表現 話す・聞く		技能 書く		知識・理解 言語		読む		合計		取り出す力		読み取る力		解決する力		合計		合計	
	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都
国語	96.1%	96.9%	66.0%	69.9%	66.1%	70.2%	78.6%	77.0%	54.2%	56.9%	72.0%	73.1%	71.8%	69.7%	74.7%	71.8%	83.1%	78.4%	75.3%	72.4%	72.5%	73.0%
社会	92.9%	94.0%	39.5%	44.3%	52.3%	55.2%	54.0%	58.3%			53.0%	56.6%	60.7%	64.6%	47.7%	57.0%	40.9%	43.3%	49.8%	54.9%	52.2%	56.2%
数学	83.4%	85.7%	43.5%	48.1%	54.4%	59.6%	56.5%	61.3%			55.4%	60.2%	44.4%	29.3%	20.3%	37.6%	17.9%	36.8%	28.7%	35.3%	48.1%	53.3%
理科	85.6%	89.0%	40.7%	48.3%	70.9%	74.6%	47.6%	54.2%			50.8%	57.2%	72.5%	78.5%	28.1%	31.6%	45.4%	53.7%	48.7%	54.6%	50.3%	56.6%
英語	85.9%	91.4%	50.3%	49.1%	66.6%	66.8%	67.0%	65.5%			65.4%	65.3%	63.7%	63.5%	76.1%	77.5%	50.0%	50.0%	63.3%	63.7%	64.9%	65.0%

◆教科等の合計正答率（A，B）と分析・改善策

	学年	東京都	分析（身につけている力・課題等）	改善策・取り組み
国語	72.5%	73.0%	「知識・理解・言語」の分野では、都平均を上回った。漢字の読み書きなど、復習を重視した結果であろうか。しかし、その他の分野では都平均を下回っている。Bの読み解く力に関する内容では、若干ではあるが都平均を上回る結果となった。	平均に比べてマイナス4.1ポイントだった「書く力」に関しては、授業で書く課題を多く出すことで、自分の考えをまとめて書く練習をさせていく。「話す・聞く」「読む」に関しては、基礎基本を重視し、確実に理解し表現できるようにしていく。
社会	52.2%	56.2%	「読み取る力」が都平均を大きく下回った。また、「思考・判断・表現・話す・聞く」「知識・理解・言語」「取り出す力」も都平均より低い。他は都平均より下回っているが若干である。「読み取る力」の育成が課題である。	都平均に比べ9.3ポイント低かった「読み取る力」に関しては資料や写真などからそのときの社会等を考察する課題を多くし、資料から読み取る力の育成を図っていく。「思考・判断・表現・話す・聞く」に関しては班での話し合い、「知識・理解・言語」では基礎的な課題を多く与えるなどして基礎知識の定着を図っていく。
数学	48.1%	53.3%	「取り出す力」は都平均を大きく上回った。しかし、「解決する力」「読み取る力」が都平均を大きく下回った。「興味・関心・態度」は都平均を若干下回った程度であるが他の3観点は明らかに低くなっている。「読み解く力」が課題である。	都平均に比べ18.9ポイント低かった「解決する力」や13.3ポイント低かった「読み取る力」を高めるために文章題を意図的に多く課題として出していく。また、教え合い、学び合いなどの活動を取り入れ読み解く力の向上を図っていく。
理科	50.3%	56.6%	「解決する力」が都平均を大きく下回っている。また「思考・判断・表現・話す・聞く」「知識・理解・言語」も下回っている。基礎的な知識・理解に加え科学的思考や解決する力に課題がある。	都平均に比べ8.3ポイント低い「解決する力」や7.6ポイント低い「思考・判断・表現・話す・聞く」を高めるために生活の中の疑問から実験への導入にしたり、考察になぜ実験結果になったのかを問うなど工夫を行い実験の充実を図っていく。また、基礎学力の定着のために定期考査前にプリント学習を行う。
英語	64.9%	65.0%	「知識・理解・言語」の分野や、「思考・判断・表現 話す 聞く」の分野では都平均を上回った。単語の読み書きの繰り返しや生徒の言語活動を重視した結果だと考えられる。しかし、「関心・意欲・態度」の分野では、都平均を大きく下回る結果となった。	平均に比べて5ポイント以上低かった「関心・意欲・態度」に関しては、教員やALTとの会話、スピーチ活動等の言語活動により一層力を入れ、英語を使うことへの意欲関心を高めていきたい。また、「読み取る力」に関しても、文章読解演習を通じて、文章の読み取り方を伝えていきたい。